

[参考事項]

成果情報名：比内地鶏の暑熱期における出荷重量低下抑制対策

研究機関名 畜産試験場 比内地鶏研究部
担 当 者 福田菜、青谷大希

[要約]

暑熱期における比内地鶏の出荷重量の改善に資するため、暑熱が仕上げ期の発育に及ぼす影響の調査とその抑制対策の検討を行った。飼料へのビタミンE添加や避暑地の設置は、暑熱期における発育低下の抑制に有効である。

[キーワード]

比内地鶏・暑熱・増体・ビタミンE・避暑地

[普及対象範囲]

県内の比内地鶏生産者

[ねらい]

比内地鶏の生産現場において、季節による出荷重量のばらつきが大きく、特に7～8月出荷のロットで重量が落ちることが実需者から指摘されている。そこで暑熱期における出荷重量の改善に資するため、暑熱が仕上げ期の発育に及ぼす影響を調査した。さらに暑熱対策による発育低下の抑制効果を検討した。

[成果の内容及び特徴]

- 1 7月から10月の各月に出荷となる比内地鶏計4ロットの発育の比較から、仕上げ期(14～22週齢)において暑熱期(7～8月)にあたるロットの増体量が低下するとともに飼料要求率も悪化することが確認された(図1、表1)。
- 2 仕上げ期が暑熱期にあたる7、8月出荷のロットでは、ビタミンE粉末360mg/kg飼料添加(VE-9倍区)、避暑地の設置(運動場区)によって増体改善効果が見られた(図3、図4)。
- 3 仕上げ期が暑熱期を過ぎた9、10月出荷のロットでは、ビタミンE飼料添加による影響は見られなかった。

[成果の活用上の留意点]

- 1 ビタミンEの適切な給与方法、給与量については更なる検討を要する。
- 2 避暑地を設置する場合は、寄生虫病や家畜伝染病の発生並びに野生鳥獣害を予防するため、土壌の入れ替えや消毒に加え、牧柵やネットの設置を行う等十分な対策を行う必要がある。

[具体的なデータ等]

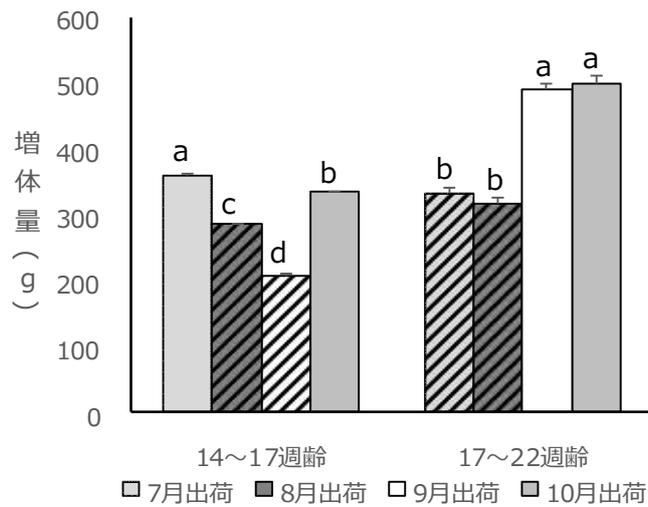


図1 仕上げ期の増体量

異符号間に有意差あり P<0.05
斜線は暑熱期(7~8月)を示す。

表1 飼料要求率(飼料摂取量/増体量)

	14~17週齢	17~22週齢
7月出荷	7.7	13.8
8月出荷	9.9	12.7
9月出荷	9.8	5.9
10月出荷	7.4	8.7

太字は暑熱期(7~8月)を示す。

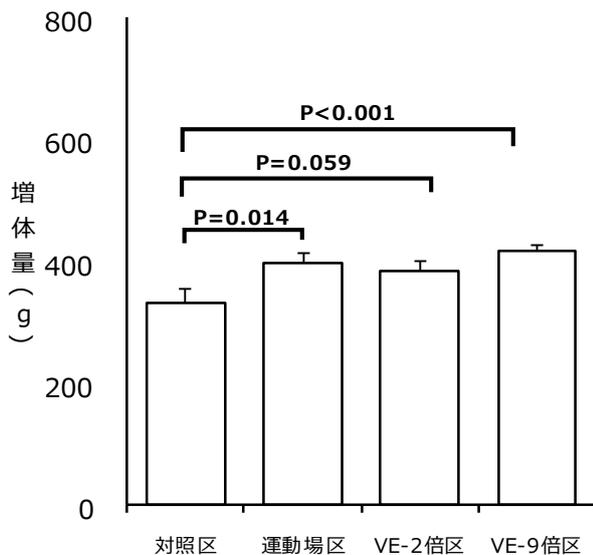


図3 7月出荷 17~22週齢増体量

試験区については対照区との対比較を行い、P値を図に示した。

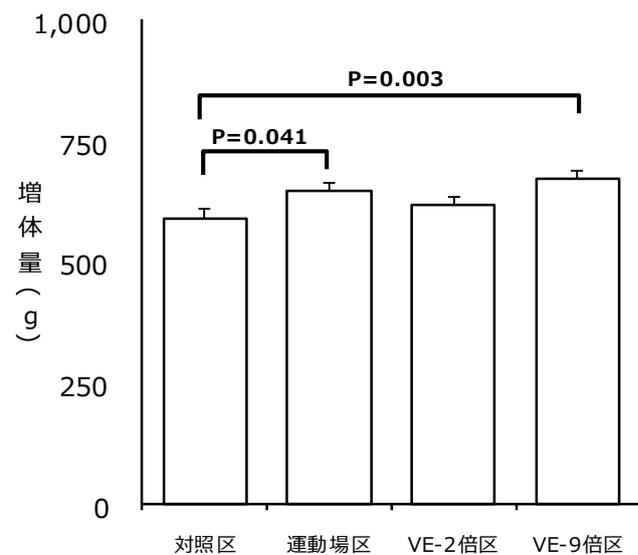


図4 8月出荷 14~22週齢増体量

試験区については対照区との対比較を行い、P値を図に示した。

[その他]

研究課題名：比内地鶏の飼料体系の確立および品質の安定化に関する研究

研究期間：平成29年度~令和2年度

予算区分：県単